

『旧倫理，旧政治・経済』

問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

『旧倫理』 人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら、先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては、倫理的諸課題について、倫理的な見方や考え方を働かせて、思考したり、批判的に吟味したりする問題や、原典資料等、多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

『旧政治・経済』 現代における政治，経済，国際関係等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。現代における政治，経済，国際関係等の客観的な理解を基礎として，文章や資料を的確に読み解きながら，政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては，各種統計など，多様な資料を用いて，様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図，解答結果及び自己評価等

第1問では，古代における個人の在り方や社会との関係を，規則・法令・規範・戒律などの人が作り出したきめごと，「ルール」を紐帯として捉えることによって，その根源となる世界観や，ルール設定の目的として想定されている秩序のすがたを問うた。ルールの設定やその実践の諸相を相対的に見つめなおすことによって，それらの異同や変化から，ルールの存在意義とその背景にある他者の価値観を考える問題を設けた。

問1では，法則や規範の根源となる宇宙や世界の捉え方に関する知識について問うた。古代ギリシアと中国の双方の諸思想から正しい記述を選ばせる形式の出題とした。問2では，仏教・ジャイナ教における戒律についての知識を問うた。在家者に課された戒めの詳細や，大乘仏教の徳目の理解をも問うことで，宗教者の生活実態や宗教思想の変遷をも問うことができる戒律の重要性に目を向けさせる問題とした。問3では，中国における諸思想の基本的な特徴を批判的文脈の中で読み解く力を問うた。そのため，資料全体を読まずに下線部を読むだけでは解きにくい問題となった。問4では，新約聖書の資料を活用し，キリスト教的な規範と社会のルールとの関係を読み解く思考力を問うとともに，イスラームについての知識を問うことで，両者の社会認識の差異に注目させた。

第1問全体では，複数の思想を同時に問う問題において，比較的に難易度が上がる傾向が見られた。また，各小問においては，基本用語についての理解の不足が解答を困難にした可能性があると考えている。

第2問全体のテーマは，古代から近代にいたる，理想的な社会や生き方をめぐる日本思想である。生徒会活動の中で，理想を掲げることの難しさに直面した高校生が，先生の示唆を受けながら調べ学習を行う場面を設定した。その筋道に沿って，倫理の基礎的知識，資料読解力，倫理的諸課題についての論理的思考力を問うことを目指した。更に，「現実主義」という名の冷笑主義が広がる昨今の状況下で，社会の諸問題と対峙する思想的構えについて考えてもらうことを意図した出題であった。

問1では，古代の他界観についての理解を問うた。神代神話，また柳田国男・折口信夫の学説についての正確な理解を求める問題となっている。日本古代思想・神道思想の分野は重要な分野であるので，教科書や教育現場でも充実した学習を求めたい。問2では，日本において浄土教を広めた僧に関する知識を問うた。一遍の信不信，末法の定義，源信の観想念仏，御文の性格等を問う内容である。浄土信仰という共通の論点を介して仏教者たちの思想を横断的に理解する視点は，思想史学習のために有益であると考えられる。問3では，荻生徂徠についての教科書記述に基づく知識を基に，資料の読取りを通じて，徂徠の政治

思想を捉える思考力を問うた。教科書の内容をきちんと学習していれば、難しい問題ではない。問4では、桑原武夫のエッセイから、ユートピア思想についての著者の考えを読み取り、更にそれを北一輝、岸田俊子・景山(福田)英子、田山花袋らの思想と関わらせて捉えなおす思考力を問うた。本小問の資料は、現代の人々が理想とどのように向き合うべきか、という問題を考える上で重要な示唆を与えるものである。

第3問のテーマは「動物」である。ただし動物倫理ではなく、動物を考えることで「人間とは何か」「倫理的配慮が必要な対象とは何か」を考えてもらうことをコンセプトにした。まず、過去の哲学者たちによる動物の扱い方についての理解を助けるリード文を冒頭に置き、最後の趣旨問で、資料を読んだ高校生が、これまで多くの哲学者たちが動物を論じてきたことを知り、人間以外の動物も視野に入れた倫理を考えていく必要に気付くという場面設定にした。動物を直接問題にしていない他の設問も工夫して、これまでの倫理が人間に偏った倫理であった事態にも気付いてもらうようにした。

問1、2は近代西洋思想についての知識・理解を問う問題である。哲学者とその思想のキーワードをただ関連させて覚えているだけでは正しく解答できず、思想内容の正確な理解を要求するような問題作成に努めた。

問1は、ライプニッツの思想に関する知識問題である。時代的にも思想的にも近いスピノザとの違いを正しく理解できているかどうかを問題にした。問2は、ロックの思想の説明で適当でないものを選ばせる問題である。出題方法に工夫を凝らし、昨今話題にもなっている生成 AI に学生が質問をしたという場面設定にした。問3は、カントの思想の理解と資料読解の正確さを問う組合わせ問題である。カントが動物について言及した二つの資料を提示することで、カントが動物という存在をただ否定的に論じていたわけではないことにも気付いてもらえるように工夫をした。問4は、過去の哲学者たちの動物に関する議論と、ベンサムを基にした先生と高校生との会話の内実を正しく読み解けているかを問う趣旨問である。この問4には、私たちが古典に学び続ける意義や、倫理的配慮の対象となる存在とは何かを考えることの重要性を伝えるというメッセージを込めた。

第4問の全体を通じてのテーマは、インターネット、特に SNS を利用する際の倫理である。現代社会において、誹謗中傷や差別主義的な語りの拡散など、インターネットの利用と結びついて諸々の社会問題が現実を生じており、制度的な規制も議論されている。これに対して本問には、利用者の倫理的な姿勢に、改めて目を向けてほしいというメッセージを込めた。また、大問を通して、共通テストで求められる資質・能力をバランスよく問うことを目指し、現代の倫理的諸課題、青年期の心理についての出題を含めた。

問1は、多文化・多宗教状況について、人々の共生とそれをめぐる課題に関係する用語の理解を問う出題ができた。インターネットがヘイトスピーチやエスノセントリズムと結びついてしまっている状況を意識して作問した。問2は、青年期の心理に関して、青年期の心身の発達・成熟に関する知識を聞く問題であった。問3は、ステレオタイプに関する、リップマンの資料の読解問題である。ステレオタイプは偏見を助長するものとして捉えられがちであるが、本問では、元々リップマンがどのような議論を行っていたか、資料に基づいて考えさせることができた。問4は、大問の趣旨と関連した問題である。リード文Ⅱ、及び本小問の文章を読み、それらの記述を理解した上で、インターネット上でコミュニケーションを行う際の姿勢について、大問の趣旨に適した倫理的な姿勢を含む記述を選ばせる出題ができた。

第5問では、生徒たちが、「政治・経済」の授業で学んだ民主政治について復習するために作成したメモの内容を基に、関連する学習を自主的に進める場面を設定し、その上で、生徒たちが、少数民族、世論、日本の国会、民主化、地方自治、地域共同体、国際的な人権保障、公害問題について調べ、考察する問題を作成した。問1は、民族紛争の前段階における対立の発生プロセスとその原因について、メモの読解を通じて理解できるかを問う問題である。問2は、国会の構成や意義、議員の役割や特権について基本的な知識を問う問題である。問3は、国際的な人権保障の展開についての基本的な知識を問う問題である。問4は、全国の苦情受付件数の統計を基に、公害や環境問

題に対応する行政機関の設置や関連する法律の制定の経過と合わせて、典型7公害に関する苦情件数の割合の変化が読み取れるかを問う問題である。問5は、現在の地方公共団体における事務区分に関する理解を問い、事務区分と国の関与との関係について考察させる問題である。問6は、民主主義における地域共同体の位置づけに関する古典（ブライス著作『近代民主政治』）についての知識を問う問題である。全体の難易度は高かった。

第6問では、生徒が文化祭での研究発表について、「地球温暖化が日本経済に及ぼす影響」をテーマに準備する場面を設定し、その上で、日本経済に対する負のショック（金融ショック・パンデミック・災害など）を理解する上で必要な、経済学の基礎的な枠組みに対する理解を問う問題を作成した。問1は、経済成長率の基本、及び、名目経済成長率と実質GDPの簡単な計算問題を解くことにより左記内容を理解しているかを問う問題である。問2は、企業の経済活動を示す貸借対照表の理解、及び、会話文から貸借対照表がどのようなものかを読み取らせ、自己資本比率を解答させ、自己資本比率が何を示しているかを問う問題である。問3は、排他性や競合性という用語の知識、及び、実際にどのような財・サービスにそのような性質が当てはまるのかを問う問題である。問4は、為替の変動に関する基本的な理解を問う問題である。問5は、中小企業に関する基本的な理解を問う問題である。問6は、機会費用の意味に関する理解を問う問題である。全体の難易度はやや高かった。

第7問では、生徒が「人口問題と社会の持続可能性」というテーマでの探究学習を行うという場面を設定し、その上で、人口減少が社会に与える諸影響について、多面的・多角的な視点からの考察や分析を意識して問題を作成した。問1は、人口減少の下で生じている労働力不足の問題に対して、政府による労働市場政策とその効果について理解しているかを問う問題である。問2は、日本の出生数と合計特殊出生率のグラフを適切に読み取る力と、この問題に関する教科書知識の理解を問う問題である。問3は、人口減少の下で生じている地方部の地域社会における過疎・高齢化が地域社会の持続可能性に及ぼす影響について理解しているかを問う問題である。問4は、人口の少子高齢化と、それに伴う人口減少が日本においてどのように生じたか、また、そのことを受けて国が行った社会保障制度の持続可能性に向けた取組みについて、資料の読み取り方を含めて理解しているかを問う問題である。全体の難易度はやや低かった。

3 まとめ

『旧倫理』分野についてのまとめは以下のとおりである。

昨年度作問に当たった委員の経験を全体として共有しつつ、具体的な倫理的諸問題への関心を受験者に呼び起こすような問題の作成に当たった。問題作成の作業においては、多角的に問題を検討するとともに、量的に適正な範囲に収まるように努めた。旧課程での出題は今回で終わるが、旧課程の作問の中で多くの有意義な経験を蓄積することができたので、新課程においてもこの経験を、質の高い作問のために活用することが重要である。

『旧政治・経済』分野についてのまとめは以下のとおりである。

『旧政治・経済』の問題においては、作題の過程で、学習指導要領に準拠し、高等学校で習得する正確な知識・適正な技能と、習得した知識・技能を生かして思考・判断し解答する問題の作成に努め、全体的に、学習指導要領に即して共通テストに求められる適切な内容及び適正な難易度の問題を作成できたものと判断している。

作題の過程で特に意識した課題として、文章やグラフなどの資料から情報を読み取り、高等学校で学習した知識と有機的に結びつけることで、思考力等と学習成果の双方を発揮することにより正答を導くことができる内容の問題を作成することを部会全体で心がけ、そのような出題も比較的多

く行うことができたと判断している。その一方で、前記のような出題を行おうとする場合、1問当たりの文章量が増加する傾向があり、他面で、科目全体の文章量との関係で資料の文章やグラフ等の図表の分量が多くなり過ぎると、解答者が所定の時間内に解答するために要する読解の負担が大きくなることへの懸念もあった。これらの点のバランスを取ることが、共通テストにおける政治・経済分野での出題において、今後も引き続き留意されるべきであると考ええる。